

観光ホスピタリティ クリスタル

事務局 旭川市常盤通1丁目 旭川観光協会 ☎0166-23-0090
FAX0166-23-1166

北海道観光ボランティア連絡協議会

発行人 会長 山崎博幸

印刷所 総 北 海

旭川市工業団地2条1丁目1-23
☎ (0166) 36-5556

《観光ボランティアは北海道の元気の源である》と私はいつもそう思っております。全道各地で活躍している観光ボランティアが、年に一度集う全道大会で一年ぶりに皆さんにお目にかかりましたが、皆さんは相変わらず元気いっぱいのおーらを発していました。地元の観光PRを始め、癒しを求めて来道される観光客の方々に最新の情報を提供する為日々努力しているお姿は、まさに我が北海道の誇りであります。

＝笑顔と情熱で 明るい北海道を＝



北海道観光ボランティア連絡協議会 会長
山崎博幸



今年、世界的な不況・円高・インフルエンザなどの影響を受けて北海道の観光は少し冷え込んだ形となりましたが、一番の売りである雪のシーズンでその巻き返しを図りたいと思っております。北海道の雪と空気を自然に感じて訪れる方々を各地のボランティアが笑顔でお出迎えして、お客様に「北海道って最高だね」と感じていただくことが北海道の最大の財産になるのだと思います。この年に一度のクリスタル会報を通して各地で活躍しておられるボランティア同志の友情溢れるメッセージでお互いに元気をつけ、この大地の為に一層頑張っていたきたいと願っています。

今年、世界的な不況・円高・インフルエンザなどの影響を受けて北海道の観光は少し冷え込んだ形となりましたが、一番の売りである雪のシーズンでその巻き返しを図りたいと思っております。北海道の雪と空気を自然に感じて訪れる方々を各地のボランティアが笑顔でお出迎えして、お客様に「北海道って最高だね」と感じていただくことが北海道の最大の財産になるのだと思います。この年に一度のクリスタル会報を通して各地で活躍しておられるボランティア同志の友情溢れるメッセージでお互いに元気をつけ、この大地の為に一層頑張っていたきたいと願っています。

永年の活躍たえ 十名を会長表彰

全道大会では、ボランティアガイド活動に永年尽くしておられる十名の方が北海道観光ボランティア連絡協議会会長表彰を受賞しました。

各地域の加盟ボランティア組織が北海道観光ボランティア連絡協議会に受賞候補者を推薦し、役員会で決定しています。

平成二十一年度の受賞者は次の方です。

榎谷潔さん

(主別観光ボランティアガイドの会)

佐々木二三子さん

(疑似観光ボランティアガイドサークル)

「来たい。」と感じていただくことが最大の成果なのだと、このことを改めて皆さんと共に認識したいと思います。

最後になりますが、北海道が観光の国を目指す上で皆様のような精神を持った人々が何より力であります。どうぞこれからも健康を第一に、生き生きと充実した観光ガイド活動のために、北海道を訪れるお客様のため一層励んでいただきますようお願いし、ご挨拶と致します。

岡田三三さん

(かみふらの観光ボランティアの会)

新明道子さん

(函館観光ボランティア愛)

森口和男さん

(登別市観光ボランティアガイド会)

中村一雄さん

(室蘭市民観光ボランティアガイド協議会)

桜庭隆子さん

(芦別観光ホスピタリティ協議会)

小松勲夫さん

(旭川観光ボランティア協議会)

手代木博さん

(森町観光ボランティアガイドの会)

真下えみ子さん

(NPO法人シベチャリ観光ガイドの会)



全道大会を終えて



登別市観光ボランティア
ガイド会 会長
相 澤 英 男

登別ガイド会が地獄谷で活動を開始して本年度で20年目を迎えます。その間、全道大会は平成7年に続き14年・21年と今回で3回目となりました。

それで「もう3回目だから慣れたもの」とでも言われそうですが、とてもそんなものではありません。

なんとか「登別」らしい特色を演出したいと考えるのですが中々そうはなりません。

それでも近年着任したばかりの登別厚生年金病院の「北海道の桃源郷を目指す」成田副院長のスポーツ医学に根ざす「温泉と健康」を紹介され、更に登別が生んだ偉大な言語学者「知里真志保 生誕百年」を記念して同事務局長の小坂氏の快諾を得て、どうにか登別らしさは演出できたのではないかと思います。交流会も同一地区の集まりに



ならぬよう各地区が互いに交流できるよう、各テーブルに当会会員を複数配置しお世話係としましたが如何だったでしょうか。2日目のエクスカーションでは、これまでなかった二つの新しい観光スポットに重点を置きました。その一つは、昨年開湯百五拾年祭を記念して温泉街の中央部に新設された泉源公園で一日3時間中約50分間噴湯する間欠泉ですが、当日はどうした訳か午前中ずつと休みなく噴湯を続け私達を喜ばしてくれました。今後登別温泉を代表する観光スポットになるでしょうし又そうなるてもらわねばなりません。

もう一つは、常時大湯沼から流れ出ている「夏は50℃・真冬でも40℃」といわれている大湯沼川の中腹に出来た人気の「天然足湯」です。

これまで登別温泉の湧出量は一日一万屯といわれ、その約25%はただ放流されていたと聞いていましたが、この天然足湯の出現によってこれも登別原生林の自然森林浴と合わせて100%活用になるのではないかと勝手に考えています。



様似
観光ボランティアサークル
佐々木 二三子

夏は涼しく冬は暖かく、雪の少ない様似町で生れ育ち、毎日見るテレビの北海道地図と天気予報に、この地が一番いいところだと自負して暮らしております。

この度の、登別大会において会長表彰を頂きまして本当にありがとうございます。

自分の活動内容を思う時、穴があつたら入りたいぐらいの気持ちです。

美幌大会に初めて参加させてもらい、この登別大会は二度目の事でした。皆様の活発な活動を見聞きして、ただ感心するのみでした。平成十年に設立した様似観光ボランティアサークルです。若い女性の中に中年過ぎた私などがまざり合った会でしたが、若い人は仕事の関係などで続かず、年増ばかりになりました。若がえりはなかなか困難です。

会長表彰をいただいて

ミットが様似町であり、そのお手伝いが私達のデビューでした。千歳空港の迎えや特産品販売や様似の名所を説明したり、特産の昆布の事など緊張して対応したことが昨日のことのようです。

風光明媚な様似町、アポイ岳が日本ジオパークに認定されま

北海道観光ボランティア 連絡協議会会長表彰受賞して



登別
観光ボランティアガイド会
森 口 和 男

今年もいよいよ冬將軍到来の季節になりました。ボランティア連絡協議会の皆様にはお元気にお過ごしのことと推察申し上げます。

去る10月15日・16日に開催されました、2009「ホスピタリティ全道大会inのぼりべつ」には、全道から大勢のご参加を頂き、盛会裏に終わる事が出来ました事を、準備を担当した登別観光ボランティアガイド会の

した。故郷の良さを全道、全国の人にもっと知ってほしいと願っております。二〇一〇年の新ひだか町での全道大会に何かお手伝いしたいと思っております。そのために体にも気をつけての日暮しです。

最後になりましたが、北海道観光ボランティア連絡協議会の益々の御発展と全道会員皆様のご多幸とご健勝をご祈念申し上げます。

一員として御礼申し上げます。

また、この全道大会の席上にて、栄えある北海道観光ボランティア連絡協議会会長表彰の榮譽を賜りました事、身に余る名譽と心から厚く感謝申し上げます。

さて、私のガイド活動を振り返ってみますと、早いもので十年になりました。仕事を辞めて「さて、これから何をしようか」と考えていたとき丁度、市の広報でガイド養成講座があるのを知りました。内容を見ると、登別の歴史や温泉の勉強をして、ボランティアガイドをするのが目的ということでした。

地獄谷や山の中を歩いて案内するのなら自分の健康維持には

もつてこいと、ごく軽い気持ちでガイド会に入会しましたが、ドッコイそんな生易しいものではないませんでした。第一自分が口下手で、知らない人に中々声を掛けられない性格だと言う事をすっかり忘れて居りました。どうしたら初対面の人に気軽に声を掛けられるのだろうと、先輩方の背中を学びつつ、四苦八苦、中々出来るものではなく、ガイドに行く度に、恥じかき・汗かき・ベそかきの連続、やれやれもう駄目かと思った時、昔の諺を思い出しました。「習うより慣れろ」と。まさに其の通りでした。三かきを続けているうちに、何時の間にやら声も掛かけられ、冗談も言える様になりました。私達のガイド会は、春の連休から、十月一杯の半年間を活動期間として、国内外から此処、登別温泉にご来泉のお客様を案内しております。平成16年に北海道遺産に指定された地獄谷、大正13年天然記念物指定の登別原生林、登別市の三大史跡の題目石・鉦作り観音・薬師如来、そして、大湯沼・大正地獄・天然足湯など、見どころが沢山あります。

活動は、先月で終わりましたが、案内したお客様が別れる時、「有難う、楽しかったよ、また来るよ」と言ってお下さる言葉を喜びとして、活動を続けて参ります。今後も、此の度の受賞の感激を胸に、ホスピタリティ活動の原点である「おもてなし」の精神を我が心として尚一層精進を重ね、体力の続くかぎりガイド活動を続けることを誓い、受賞の御礼の言葉とします。有難う御座いました。



NPO法人
シベチャリ観光ガイドの会
眞 下 えみ子

受賞&感謝

全道各地より観光立国北海道を目指し、心を同じくする方々が登別に集まり盛会に行われました。

観光ホスピタリティ全道大会席上にて、北海道観光ボランティア連絡協議会会長賞を受賞させていただきました事、身に余る光栄と大変感謝致しております。

これもひとえに、シベチャリ観光ガイドの会長はじめ、会員の皆様の温かいご支援、ご協力の賜物と心よりお礼申し上げます。

今後、この光栄をさらに新しい意気を持って、ホスピタリティの精神でお客様と接し、笑顔



函館観光ボランティア「愛」
新 明 道 子

会長表彰をいただいて

紅葉真つ盛りの秋の一日、会長表彰状を戴くために、函館ボランティア「愛」の四人朝早く車で函館を出発しました。気心の知れたメンバーの楽しい話題でドライブ気分、休憩で道の駅に寄りその地域のおいしいような果物・朝露を含んだ取れたての野菜など、作つた人の笑顔の中で買物をしました。何か今日の目的も忘れ子供のようにはしゃいだ楽しい一時でした。

会場は、ハッピを着たお当番の登別ボランティアの皆さんが元気に、鬼に金棒と一緒に迎えして下さいました。

表彰される方々は十名、道南からは二名で、指定された席に着き表彰の時を迎え、皆さん晴れやかに会長よりの表彰状を戴きました。

私達函館ボランティア「愛」は、創立二十八年になり全国でも立上げが早いと云われている伝統ある団体です。メンバーは新旧入れ代りしましたが現在二十二名、各分野でも活躍なさっている方々です。今回の賞も私で四人目、私が戴くとは思ってもいなかった程。

私は回りの皆さんに助けられながら十年間過して参りました。賞状を手にして責任は重いけれどもこれは今後若い人達にボランティア精神を伝えて行くのが私の務めと思いました。

函館は今年、横浜・長崎と共に開港百五十年を迎え、大いに賑わいました。

観光スポットの函館山・異国情緒漂う教会群、振り向くと広がる美しい街並と港、来年は五稜郭公園に奉行所も昔の姿通り完成します。恵まれた歴史の残る函館の観光案内人としての日々の研修と、又自分自身を磨いて行かなければと各自胸に刻んでいます。

NHKドラマ「天地人」と同じ「愛」の名前の私達、「愛」の精神を掲げてこれからも函館の顔になるよう務めたいと思います。

全道のボランティアの皆様登別のお当番の皆様楽しい思い出をありがとうございました。

また来年桜の美しい二十間道路の静内でお逢いしましょう。

会長表彰をいただいて



かみふらの
観光ボランティアの会
岡 田 三 一

今年の全道観光ボランティア登別大会で表彰状をいただき、誠にありがとうございます。かみふらの観光ボランティアの会の現況を少し紹介しながら、お礼を申し上げます。

かみふらの観光ボランティアの会が発足したのは、11年前でした。スタートした時はわずか2名でしたが、翌年には13名の会員になり、活動の範囲も徐々に広がりをみせ、充実したものになってきました。

現在は、観光案内業務のほか、駅周辺の除草作業や清掃活動など23名の会員で活動しています。一昨年末では駅前の建物を借用しての観光案内でしたが、平成21年度からは駅舎内に移転しての活動となりました。

駅舎内に移ってから、案内所を利用する観光客が増加したことに加え、列車の待ち時間を使って上富良野の歴史的なことや自然・産業・文化的なことなど興味深く

話しかけてくるお客さんが予想以上に多くなったこと、以前上富良野に住んでいた方が数十年前の様子を語ってくれたことでした。このことは、私達にとっても励みになりましたし、これからの活動の方向性まで示唆してくれているもので、とても参考になり感謝しております。

感謝 感激



森町観光ボランティア
ガイドの会会長
手代木 惇

山崎会長様はじめ皆様のご指導ご支援に感謝申し上げます。このたびは、貴会会長表彰を賜り御礼を申し上げます。

光栄なこと嬉しいです。

この表彰は、私個人というよりは当会にかかわりました多くの皆様のご指導ご支援のお陰とっております。

その中でも特に、佐藤喜久恵様（道観連副会長・函館一會の会長）には当会の発足にかかわ

発足当時は外国からの観光客もそう多くはなかったのですが、今は3割を占めるようになりました。簡単な挨拶や道順の説明を外国語で出来るようになることをめざして進もうとしています。

地方の小さな観光案内所ですが、全道の関係機関の方々と各地で活動しておられるボランティアの仲間の方と情報を共有しながら、これからも邁進していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願います。

り多大なご指導をいただきましたし、研修会等にも快く応じていただきました。

貴会の各地での大会、函館・旭川・札幌・登別に参加し交流を深めさせていただいたことを懐しく思い出しております。

めつたに遭遇しない旭川全国大会の時には、感動感激を味わせていただきました。

その思いが今日までの活動を醸成したことは事実です。

もちろん当会会員の活躍があればこそその受賞です。

公務多忙の中、野村顧問・長谷川幹事長・加藤副会長の皆様そして個性あふれる会員のご尽力に感謝を申し上げます。

表彰を受けた後、北海道新聞に記事が掲載されました。

朝刊を六時頃見ていましたらその三十分後、お祝いの電話がありました。それから数人の知人からも電話をいただきました。

また、月曜会といまして森町の各事務所（役場・商工会議所・議会・学校・駅など）管理職が月に一回集まり話題を提供する場で、表彰を賜ったことを伝えましたところ大きな拍手をいただきました。

観光ボランティア 全道大会に出席して



旭川協議会
観光ボランティア
小 松 勲 夫

また厳しい冬の季節がやって来ましたが全道のボランティアの皆さんお元気で過ごしてください。今回の全道大会では登別の会員の皆さん達には大変お世話になりました。又、各地の皆さんの多彩な歌や踊り、又太鼓演奏等々大変楽しい一時を過ごさせていただきました。お陰様で元気を頂いて帰ってきました。

さて、私事ですがこの度は思ってもいない大変名誉ある賞をいた

さらに、「シーニックバイウエイ北海道函館・大沼・噴火湾ルート」の会合時にも、お祝いをいただき感激をいたしました。その後も嬉しい出来事が続きました。地元の中学生在が「ボランティア・スピリット賞」入賞したことです。「もりまち桜まつり」の際にお手伝いをした子です。目出たい事柄の連続です。今後に向けて、活動の充実発展を目指し精進してまいります。よろしく願い申し上げます。

だき身の引き締る思いで恐縮しております。会長始め関係者の皆様方本当に有り難う御座います。又、会員の皆様方の暖かい拍手等いただきました有り難う御座います。

早いもので旭川に観光ボランティア組織が立ち上げられてから、来年には25周年を迎えます。昭和61年に組織が出来た当時は、活動のイロハも分らず五里霧中の船出でした。当時は移動式の TENT を張り、雨や風に悩まされながらの活動で、現在のような冷暖房の完備した場所へ接客出来る事など夢にも思いませんでした。発足当時から会員も現在私を含め、3名しか残っていませんが今

では110名余りの皆さんが活発な活動を行っていてこれからをもっと充実した組織になつて行く事と大変期待しています。

現在旭川ではJR旭川駅構内のセンターの他3ヶ所で活動を行っています。観光案内だけでなく、食事や宿泊・道路案内等々多岐にわたる質問が多く私の勉強不足を嘆く日々を過ごしています。お客様もインターネット等で詳しく調べて来るらしく私共の知らない場所等の問合せも多い為、多忙な時期等、他のお客様にご迷惑をお掛けする事も度々あります。

歴史をふまえ 聞いて頂ける案内を



士別観光ボランティア
ガイドの会
榎 谷 潔

この度、はからずも北海道観光ボランティア連絡協議会会長表彰の榮譽に浴し光栄に存知ますと共に、今日まで支えて下さった皆様に感謝とお礼を申しあげます。

自分の住む街の歴史を知りたいと観光ガイドの会に入会し九年余り、振り返ると同会の先輩を始め、多くの皆さんとの出会い

さて、JR旭川駅も二年後は新しい駅舎が完成する予定で当センターももっと広い場所で開催出来る予定ですので楽しみにしています。お客様の案内も年末年始以外は、年中無休です。是非皆様一度お立ち寄りください。お待ちしております。

来年は、新ひだか町で大会が予定されていますが、お互い健康で多くの方々が参加され、盛大な大会としたいと思います。

最後になりますが、皆様の御多幸をお祈りしております。

別れがあり色々な体験・勉強をさせて戴いた期間でもあり、書き留めた資料が手元に山積み、中でも平成十五年九月十三・十四日、士別で開催の全道大会の様子が頭から離れない、全道から、お出で頂いた二百五十名余の皆さんのパワーの凄さは、現在の私の大きな力となっております。

士別は、農業を基幹とする田園都市で、「サフォーク(めん羊)の街」・「自動車寒冷地試験の街」・「スポーツ合宿の街」・「生涯学習推進の街」・「農業の街」を柱に街づくりに取り組んでおり。

此の時事話題は、白鳥の飛来

と、甜菜糖の生産を開始した士別甜菜製糖工場です、大型トラックが出入り、見る見る増える原料(ビート)の山、大きな煙突からは、もくもく上る白い煙(水蒸気が大半)が、街の何処からでも見え元気を貰う、此の四季の風物詩です。

これから、冬期スポーツ合宿の皆さんがお出でになる時季でもあ

荣誉ある賞に感激



室蘭市民観光ボランティア
ガイドの会
中 村 一 雄

紅葉も美しく爽快に恵まれ10月15日・16日

2009観光ホスピタリティ全道大会が登別市登別温泉グラウンドホテルにて盛大に開幕、全道観光ボランティア関係者二百五十名ほどがホスピタリティ精神、心を輝かせ人との出会いに期待し参加され、室蘭観光ボランティア協議会より野村滋会長初め十七名の参加、午後一時、大会長の北海道観光ボランティア連絡会会長山崎博幸氏より心のこもった挨拶につづき、登別市長

り。

ホスピタリティの精神を忘れる事無く、「歴史をふまえ聞いて頂ける案内」を信条に努力を続けたと思います。

最後に成りましたが、今回大変お世話になりました関係者の皆さま、また、登別の皆さまに心から感謝とお礼を申し上げ御筆いたします。

小笠春一氏より歓迎のご挨拶を受けた後、本道観光振興に貢献で、栄えある北海道ボランティア

連絡協議会会長表彰を、各地より十名が受賞され、不肖私も室蘭観光ボランティアガイド協議会野村滋会長始め役員の皆様より推薦頂き受賞させて頂きました。

此の事身に余る光栄と感激し家内共々生涯忘れる事なく心より感謝とお礼申し上げます。思えば二十数年前に妻にさそわれ、はまなす国体、藍い染めボフリ制作、地球岬の観光案内観光協会委託案内、特に9月豪華客船ダイヤモンド・プリンセス入港で真

心のおもてなしで室蘭観光ボランティアガイドで歓迎行事として華道、茶道、折り紙など私も一役買つて長年、自分の趣味の書を日本伝統、文化紹介の意味で紋付き袴で書道実演微力ながらお手伝いさせて頂き今後も健康な限り仲間と共に活躍出来ればと思う。

私事ばかりで失礼致しましたが、午後二時より記念講演、演題(温泉と健康)講師登別厚生年金病院副院長成田寛光氏は同院で導入された温泉プール浴室に就て病軽減、保温やリラクゼーション効果や歩行訓練では浮力などで、下肢への負担を軽くするなど活療効果などスライド使つて講演に身につける話に会場は拍手がとどまる事なく大変有意義な講演でありました。休憩後、特別講演(知里直志保一〇〇年)、講師知里直志保を語る会小坂博宣氏へのアイヌ文化の歴史などスライド紹介で講演に続き登別市観光ガイド会など団体の熱のこもった活動事例報告有り。

夜の交流会。立食で色々な方達と和気あいあい楽しい出合で次期開催地新日高の成功を祈り終に皆様に感謝申し上げます。

今後北海道ボランティア協議会のより一層の発展と会員各位のご健勝をご祈念申し上げます。

観光ボランティアを通じて

ふらの観光ボランティア
「ROCOCO」

今 弘 子

ふらの観光ボランティアＲＯＣ
ＯＣＯの会は、平成10年5月に
設立されました。

今年の9月には、北海道知事より心のこもった感謝状を頂きました。

諸先輩さん達の長年にわたる観光ホスピタリティの実践団体として認められました事は大変嬉しく思います。

4月の連休始めから5月いっぱい、土・日・祝日の10時から3時迄、夏場に入る6月からは毎日の活動に移ります。月に一度、昼食を挟みながらのミーティング、来月のシフトを出席者全員で都合の良い日、又、時間帯を申し合わせ同時に協会の方からのお知らせや日頃の気づいた事等を話し合い、次の月の導とします。

仕事の仲間やお友達との楽しいお話の好きな私が観光ボランティアに入れて頂いて5年になりました。



社団法人 美瑛町観光協会
観光アドバイザー

渡 辺 実

美瑛の郊外に暮らし始めて4年になります。窓の外にはたお

また、お会いしましょう

がとう」と帰り際に寄つて下さるお客様の言葉は、何よりの励みになります。

又案内所内では、見知らぬお客様同士のほほえましい光景にも会います、乗り物の時間帯が悪くて困っているご婦人を、行く場所が同じなので一緒にどうぞと誘つてマイカーに案内して行かれた若いカップル。

旅は、人と人との心を優しくつなぐ出会いの瞬間だと感動しました。

私も笑顔で明るい挨拶を「おもてなしの心」として、お客様のサーブス向上に努めることを心に念じ、へその町・ワインの町・スキーの町・ラベンダーの町、そして、ふらの野菜の美味しい食事をと求めて訪ねて頂く多くのお客様に心からのおもてなしで、お迎えしたいと思います。

やかな曲線を描く丘の稜線が交差し、点在する白樺やカラマツの林がアクセントを添え、その背後に大雪・十勝の峰々がどつしりとそびえています。

ここでは、陽の出から陽の入りまで太陽を追うことが出来、西の山から現れた白い雲が形を変



室蘭市民観光ボランティア
ガイド協議会

笛 森 琴 絵

「海へ!」地域の宝物を
子供たちと探す

えながら東の山へと流れてゆく様もみえます。一日の光の変化や四季の彩りの鮮やかな移ろいは飽きることがありません。

美瑛町の観光アドバイザーという仕事に携わって3回のシーズンを終えました。この間本当に様々な人と出会いさまざまな旅のスタイルに接することが出来ました。奇抜な外見とは裏腹に礼儀正しく爽やかだった若い力ツプル、4人で軽ワゴンに車中泊しながら山口県から走ってきた中高年グループ、記念にと大事にしていたお守りをくれた外国人、徒歩で全道一周を目指していた真つ黒な学生さん等素晴らしい出会いがありました。

この仕事を始めるまでは見知らぬ人と話するのは苦手でしたが、今は話しかけることがむしろ愉しいようになりました。それはこの北海道が持つ大きさと暖かさが我々や旅行者の心を開

かせるからなのでしょう。

都会でのサラリーマン生活を捨てて不安一杯で北海道へ移住してはや10年、今ではここで生まれ育った方々と同じようにこの地を誇りこの地を愛し自信をもってご案内できるようにしました。

北国の天候は時として厳しいものがあります、でも気象条件は厳しいほど美しい自然や暖かい人の心を育むとも言われます。

美瑛を訪れた旅行者が再び多忙で煩雑な日常に戻った時、この丘の景色と冷涼な空気、美味しい食べ物、暖かい人達とのふれ合い等を思い出して少しでも心を和ませ自分を取り戻すきっかけになつてもらえればと思います。

美瑛はいつの季節であつても美しさと包容力をもつて迎え入れてくれるでしょう、何度も美瑛の丘の上に立ち美瑛をもっともっと深く感じて頂ければと思います。

海洋生物調査員で写真家、海洋ジャーナリストを肩書きとしてゐる。傍らで子供たちと共に船に乗り、海から町並みや海岸線を眺めイルカやクジラなどの動物を紹介することで、地域の

新しい魅力をみつめ直してもらう活動に奔走する。後援者や協働者は、地域おこし団体、ホエールウォッチング関係者、国内外の環境教育団体など様々だが、いずれも抱くのは同じ、「かけがえない海を美しいままに未来へ残したい」という思いだ。

96年に室蘭の海の動物観察グループに所属したが、現在の活動の発端となる。噴火湾のイルカやクジラたちの魅力を発信し、市民に体験の場を提供する活動に携わった。手法や経験を身につけた私は徐々に活動域を広げ、今では北海道だけでなく高知や沖縄、小笠原も行動圏となっている。このような活動の99%は非営利のため、多くのエネルギーを充てることは難しいのだが、前身が教師で子供たちの笑顔に弱いので、つい力が入ってしまう。

目の前にあってもその実態はわかりにくい海。環境や生態系保全の大切さを身近に知り慈しむ気持ちも育もうとしたときに、実際に海上で潮風の匂いを嗅ぎ、波の音を聞き、時には寒さや揺れをこらえながら海の生き物たちの生き生きとしたまじい姿に触れる経験の場を作ること。はこの上なく説得力のある方法だと感じている。どんなに上手な講演も美しい写真も、本物が

ら受けた印象には決して勝てない。船から見たイルカに人生を大きく変えられてしまう人も、たくさんいるのだ（何を隠そう、私もその1人だ）。

「土佐の海でクジラの赤ちゃんが生まれちゃうなんて信じられん！」イルカを見たら、いつも荒れている釧路の海が大好きになった「沖縄の海ですつとく

「ボランティアってー」



登別市
観光ボランティアガイド会
清 瀬 三十八

現在私は、登別市観光ボランティアガイド会に所属し登別温泉地獄谷を訪ねる「観光客の皆様にくらでも役に立てれば」との思いから、ガイド会の会則に則り活動をしている。

知人に会ったり、旧友と話したりする機会があると必ずというくらい「今何をしているの」と聞かれます。「うーんボランティアを少しね」と答えると「そうボランティアですか、いいですね」という同じ答えがほぼ80%近く返ってくる。

そこで「ボランティアって」

らしたい。そしてザトウクジラとまた会いたい」子供たちの感想はシンプルで直情的だ。それだけに美しい響きで私の心に届き、何度でも彼らと海に出たいと思わせられる。どこまでも大きく深く、一瞬一瞬に異なる顔を見せてくれる海で、彼らの澄んだ笑い声を聞くために。

という言葉の意味するところについて徒然考えてみた。

現役の人は多分に、「自由でいいなあ」との思いがありましようし、皮肉って採れば「先輩には「先輩にはもうボランティアしか出来ないのか」との一種の哀れみの念が見え隠れする。また同年輩でボランティア活動をしている人から「ボランティアだから」という言葉を耳にすることがある、この意図するとこは「自由にやればいい」とか「好きな時にやればいいんだ」との思いが見えてくる。確かに、ボランティアは自由に好きな時にやれば理想ですが、そのような生易しいものではなく、否かえって規則や、社則の下で勤めている人達より、時間的ゆとりはあるがその行動において自

己責任を持たねばならないと感じている。

地震や洪水の被害に遭われた地域の復旧応援に行った時、「ボランティアだから」といつて自分勝手な行動をとったら大変です、復旧どころか安全の確保も出来ずかえって足手まといになるだけです。

秩序を保ち、約束事は必ず守る、他の人には迷惑を掛けぬよ

観光ボランティアガイドとNPO法人



室蘭市民観光ボランティア
ガイド協議会
船 橋 博

奈良全国大会での第三分科会のテーマです、座長の金沢・和歌山に次いで3回目ですの発言で

関心があるのだなと感じました。私はケガの為2回続けてストップしてしまいますので聞くのは初めてですどんな話し合いがなされたかまとめてみます。

平成19年1216団体、内法人化54団体。平成21年1561団体法人化79約5%位

①法人化に至る経緯の紹介

う行動には責任を持つ、老いのため、朝起きてみなければ体調の良し悪しがわからない私のような老人には「極め細かな連絡」が何よりも大切なことだと考えている。何時まで続けられるか分からないが「ボランティアガイド会」の名を汚さぬよう責任ある行動の下で活動を続けて行こうと思っている。

（発言順に、ほとんど会長）。

堺 平成7年会の設立16年に話が出て18年に更に話し合い平成20年にやっと法人化出来た、長くかかったのは会と行政の理解が足りなかった、反対もあったが今は資金面活動問題なくやっている。

奈良 97年会設立法人取得（平成20年）13年間かかった(イ)組織運営の確立(ロ)資金の確保について(イ)は会員の意見の不通や一部役員は独断による不信感があった(ロ)は市から補助金の削減や県や市からの仕事に法律行為が出来ないのではないかという思いから法人化の方がいいのではないかと全員に話を2回もちやりにくくなくいしばられ

ないかをクリアーして全会員90名を設立発記人にした、現在施設の一つと業務事務一つをまされている。

〔横浜〕 平成4年会設立15年に法人化したNPO法人の成立は資産の問題だと思ふ(解散の時は全没収)活動していない人の市からの指導を受けはじめをつけゆうれい会員に対して定款の中にとり入れた。

〔洪川〕 平成11年創立現100名、県にフォーラムを開いてもらい勉強し総会で又話をしてもらい全員一致で決った。

奈良県庁担当係長、書類がそろっているかしかりした会かみる。事務的な書類をつくれる人をスタッフの中に入れることが必要、法人化出来たから良いというのはなくそこがスタートで以後認められる様、皆ががんばっているかなければならない。

②情報の共有化 NPO法人にしたいがどうすればよい

〔長浜〕 昭和59年創立現在73名、昨年法人化したいと思ふ県からアドバイスを受け総会で決議、不安の声もあつたし失敗例も聞えてくる、役員レベルではよいが会員には認識がうすい、講師を向え理解してもらおう。

〔堺〕 総務部会経理部会をつくり県の方に判断をおおいでいる(毎月)細目は専門家も入れくり

アーする為その人も会員になつてもらう。

〔県庁〕 法人成立には事務所の開設を市や税務所に届ける、そのことで税の対象になる。非営利活動をしているでは通じない、国税では法人税34分野の事業の収益サービスした請負業に当る、利がとんとんでも都道府県税市町村税の均等割で課税されるので注意所轄官庁に事業報告をする収支計算書貸借対照表を税務署と所轄官庁には同じものが使えない。

③団体の自主独立化

〔座長〕 観光協会の傘の下法人化には一年以上かかる。財源確保人材確保について

〔田辺〕 財源については有料のガイドをしている、独立はカッコイイが家賃事務員費等が要る、法人化して5年たったが脱落していった人を見ると人に譲れる話を聞く人が残る育てる形が必要、これから先行政から離れる傾向にあると思う年間売上二千万円が要ると思う。

〔奈良〕 財源21年予算額780万、会費30000×170名、市から補助金200万、客から一日一名1000円10名未満1000円「11名1100」運営協力金として約500万位になるがガイドの交通費と同じ位になる、昨年77300名のガイドをした

税務署にはこの事で何度も相談に行きこうすれば税はかからないことになった。

〔座長〕 人材専門職の事例

〔堺〕 180名法人の申請に会員に司法書士の人がいいた財務処理経理に堪能な人もいるパソコンはほとんどの人がやれる法人になつても何も変わらないといっている。

〔県庁〕 NPO法人を取得しても10名位の人数、50万〜100万位ではいきづまりやすい。人の入換えをしないのはまづい、後継者を見つづける体質をかえる解散には官報に2ヶ月3回掲載する必要があるそれに10万位かかる。

〔洪川〕 人口8.5万行政の審査が指導に変わって来てやりやすくなった市の中にNPO支援センターが出来た企業の方が出向という形で事務処理を応援してくれている。



地球岬(室蘭)

観光ボランティアガイド

全国大会に出席して



旭川 観光ボランティア協議会 代表 前田 琴

仏像の数は日本一、国宝も二二もある奈良は何度訪れても良い町で「心の文化」のふるさとと云われる由縁だと感じました。

私は「心のかよったおもてなし」をテーマに七つの分科会の中で一番人気の二七〇名が参加した第六分科会に出席しました。普段、私の窓口での案内とは違い、名所旧跡をガイドして歩いて居られる方の意見が多かった様に思いました。

まず、お客様に良い第一印象を持つていただくには一番大切なことはいつもニコニコ、大きな声で親近感を持つて接することだそうです。

笑顔の練習には「ウイスキー」と云えば、口角が上つて良いそうです。

二つめは地域の特徴や歴史、自然景観などについて深い知識と教養をもち、おもてなしすること、ガイドする相手の情報も

集め準備するそうです。

三つめの人に共感と感動を与えるガイドについては、土地の方言で話す、いくつもの情報を引出しにしまつておく、はじめの三分間で何を求めているか見極める、高知の方からは、お遍路に通じるお接待の心でガイドをしているとのこと、何か一つ土産になる話をするのも大切だそうです。

今回特に奈良の人は親切だと改めて感じ嬉しかったのは、地図を片手にキョロキョロしていた私に、みかねた通りがかりの同年代の男性が「俺、暇だから案内してやる」とわざわざ自転車を押して会場の文化会館まで、二十分の道程を連れて行ってくれた事です。

そして一番残念だったのはエクスカーションで熱望していた「山の辺の道を歩く」コースが中止になったことです。

最後に、全体会議で旭川のPRをしつかりされ尚且つ立派に意見も述べられた塚原さんに、拍手を送りたいと思います。

「話そう、語ろう、伝えよう！」
おもてなしの心を添えて」



函館観光ボランティア
一會の会
加 藤 政 代

平成二十一年度「地域紹介・ボランティアガイド全国大会」が十一月十九日・二十日古都奈良において開かれました。

私は、全道大会には何度か参加した事がありました。が全国大会は、初めてで大変楽しみに行って来ました。まず会場に着いて沢山のの人にビックリ。それもそのはず、今回の大会では過去最高の参加人数とのことでした。吉野山の金峯山寺の修験僧による法螺貝の音により大会が開幕。基調講演では春日大社・権宮司の岡本彰夫さんが「奈良を愛することの意味と、奈良のおもてなし」という趣旨で話。奈良に限らず日本人の精神に深く関わる「心の文化」からくる、もてなしのあり方を、笑いを交えて話されました。自分が案内する時にも独りよがりではなく、押し付けでもなく相手の求めているガイドでいることが大事だと再認識しました。その後各分科会



奈良大会での様子

へ。「ボランティアガイド組織の円滑な運営と課題」ということで各々の団体の現在の問題について意見交換されました。例えば、役員の選出（関心の低さ・なりたがらない・同じ人ばかり選出等）。会員同士のコミュニ

ケーション不足による意識のズレ、会員の高齢化、人材不足等。とりわけ年齢という点はどこ地域でも問題になっているようで、これを改善する為の様々な意見が交わされました。定年制を設けたり、

外歩きが無理なら定点での案内、必要な資料作り等、できるところでの活動をする。新しく入会した人への指導、研修の充実を図る。地域住民へ活動のアピールをする等。自身の会でも同じような状況があり考えさせられました。

情報交換会でも多くの参加者との交流があり、余興では相撲発祥の地・葛城市「けはや相撲甚句会」の方々が独特の節回しを披露して会場を沸かせました。二日目は、特別講座で、福井昌平さんがチーフプロデュースする平成遷都千三百年イベント等話されました。エクスカーションでは、「奈良観光ボランティアガイドの会」の方と一緒に（所により鹿と並びながら）大仏様に手を合わせ、晩秋の奈良を満喫し、意義深い思いで帰宅しました。



平成21年度
「地域紹介観光ボランティア全国大会（奈良）」
話そう、語ろう、伝えよう
わが町、わがふるさとへ」に出席して



室蘭市民観光ボランティア
ガイド協議会 会長
野 村 滋

11月19日（木）、20日（金）の2日間、奈良県文化会館を中心に開催された観光ボランティア全国大会に出席させていただきました。大変楽しい有意義な会で、多くの事柄を勉強することができました。1日目の基調講演は春日大社権宮司岡本彰夫氏が「奈良を旅することの意味と、奈良のおもてなし」という題で話され、①奈良（大和）は1300年間ずっと歴史が途切れてない町であり、日本人が誇りを取り戻すところであること、②教育や心の問題につながる本来の観光とはどういうものか、そして、③お客様をお迎えする「祭の心」―配慮と真心とは、という3つの主題について、日本の厠（トイレ）の信仰と歴史を古事記等の資料もとに造詣深く話された。今の日本人が日本を識らないことを憂うが、観光ボランティアの原点はやはり日本をよく

識ること、わが町、わがふるさとをよく識ることであると話されていたように感じました。分科会では私は第1分科会「ボランティアガイド組織の円滑な運営と課題」に参加した。この分科会では、①会員がかかえる諸問題、②役員の選出、③会員相互のコミュニケーションの3つを議題として討論がなされた。①では会員の高齢化が問われたが、高齢者には高齢者ができる定点活動があり、その活用を考えるべきことが、②では入会年別期の役員の起用を考えること等が、③では定期的な研修会、旅行等を開催すること等が話され、誰もが参加できる方



奈良大会交流での様子



長命寺（滋賀）



東大寺（奈良）

間地点展望所付近になんと大津市と守山市の分岐点がありました。車は快調に彦根城を目指し沿岸をひた走る！ナイスドライブ！！彦根市開国150年祭と井伊直弼彦根藩主であり幕府の老であった合せて開国展を開催中と好運でした。彦根城は石の町だけあつて実に素晴らしい城壁で感動しました展望台から見る眺望も360度バッチリ！長浜城は資料館のみ！近江八幡は豪商通り散策ふさわしい建物が揃っていた。いよいよ奈良へ、さすが古都は日本の夜明けにふさわしく空気が澄んでいる、この地で第14回全国大会開催、実に楽しみです参加団体167、参加人数1,030名と過去最高と発表があり開催された。



春日大社（奈良）

た。交流会は同じ目的を持つている仲間意識もあり実になごやかであつた。最後のエスカーションも奈良ボランティアの方の勉強ぶりが大変参考になりました。来年も挑戦します。

次期開催地決定 第15回開催

群馬県渋川市伊香保温泉
平成22年11月17日～18日
多数の参加を期待します。

北海道社会貢献賞 (北海道知事賞) を受賞して

旭川観光ボランティア協議会

J R 旭川駅の観光情報センター▶



このたび私どもの協議会が、十月二十日に開催された北海道地域活動振興協会主催の地域活動道民大会で、標記の賞をいただきました。地域活動の推進とボランティア活動に貢献した事が理由でした。同じような活動をしている団体が多々ある中で、たまたま私どもがいただけたのは、活動年数が長く会員数も多いことから活動実績を残してこられたことによるものと思っております。

この意味で、このボランティア連絡協議会に加入されている皆様のところにも今後同じような機会があると思われると思います。

ご参考までに私どものこれまでの活動経過と現在の取組みについて、少しご紹介させていただきます。

今から二十六年前の昭和五十八年に当時のハイヤー会社の常務さんが公園にゴミが落ちていたのを見かねて同じ会社の運転手さんに呼びかけゴミ拾いを定期的に始めました。この活動が行政の目にとまり、昭和六十一年に正式な組織として発足しました。当初は市内中心部の買物公園通にテントを張り、夏場だ

けの観光案内や清掃活動をやっていました。

その後、活動の拠点がテントからログハウスに変わり、さらに旭川駅舎内へと移動するにともない、通年の観光案内のほか、道の駅や買物公園アンテナショップ、旭山動物園での観光案内も行うようになりました。

また年3回のゴミポイ捨て禁止活動に参加して清掃奉仕を行うほか、冬まつり、夏祭り、神居古潭まつり、バーサローベツト・ジャパン、北海道音楽大行進、音楽の夕べ、などのイベントでもお手伝いするようになりました。お手伝いの中で冬まつりには最も力をいれており、6日間の会期中、朝9時から夜7時まで、会場内の案内や清掃活動に80人（延280人）近いボランティアが交代でかわっています。

平成19年夏からは駅案内所で自転車の貸出しも行っています。観光施設が分散した、平地の旭川での移動手段として、大変好評です。

今年からは観光バスや冬まつりシャトルバスでの同乗ガイド（外国語も含め）にも取組む予定です。すでに同行ガイドを行っている団体の方々のお知恵もお借りしながら進めて行きたいと思っています。

ようこそ～日高路へ



NPO法人シベチャリ
観光ガイドの会 会長
三宅 靖夫

シベチャリ観光ガイドの会は、平成六年、前身の観光ボランティアガイドサークルとして発足し紆余曲折しつつも今年で十六年になります。その間、平成九年には観光ホスピタリティ全道大会を開催することができました。それから十三年、当地で全道大会を再び開催できますことは、喜ばしい限りであり、会員一丸となり心よりおもてなしさせていただきます。全道各地から多くのご参加をいただきたくお願い申し上げます。

日高地方に一度でもお越しいただいた方は、国道沿いにもサラブレッドがのんびり草を食む牧場が延々と広がり、名馬を紹介する看板や、牧場の案内看板が林立し、牧場、白い厩舎が日高地方独特の景観を醸し出しているのを目にされたことでしょう。特に五月から七月にかけては子馬が母馬の傍に寄り添う姿や、元気に飛び跳ねる姿、ごろんと草の上に寝転ぶ姿はなんとも愛らしく、馬を見慣れているはずの地元の人目も止めることもしばしばです。

日高地方の歴史は意外と古く、和人とアイヌの最大の戦いと言われているシャクシャインの乱。そのシャクシャインの居城跡（シャチ）が各地に点在し、現

在も英雄をたたえるシャクシャインまつりが毎年開催されています。

映画「北の零年」をご覧になったかたも多いと存じますが、淡路の稲田家のお家騒動が発端で、北の地に新天地を求めた稲田邦植以下は、明治四年、当地に上陸、日高の発展の礎を築きました。ロケの一部が夕張で行われたこと、映画の町として有名な夕張に株を奪われていることに我々は決して快く思っておりません。

また、北海道開拓史によって、馬を飼育するのに最適な地として、日本初の洋式牧場が置かれ、その後軍馬を生産することを目的に御料牧場となり、皇族の度重なるご視察を受けるまでに発展しました。当時開発された強い馬作りが、日本のサラブレッド生産の中心地になったといっても過言ではありません。

さて、我々の活動は五月に満開となる二十間道路桜並木での観光案内と今年でちょうど百歳になる、伊藤博文侯や大正、昭和の皇太子殿下もご宿泊された「龍雲閣」のご案内には、一年間の全精力を注いでいる（ちょっと言い過ぎか）状況です。

全道大会では、何も無いようだけれども何かある日高の魅力

を一部でもお伝えできれば、と考えております。また、全道各地で日々活躍のボランティアガイドの皆様の貴重な体験や知恵を交流しあえる有意義な大会にしたいと今から沸々闘志を燃やしております。新ひだか町で皆様にお会いできる事を楽しみにしております。



あとがき

北海道観光ボランティア連絡協議会の事務局を担当して2年になります。寄稿していただく皆さんのバイタリティーには、いつも凄く感心しながら編集に当たっております。辞書を引いてボランティアの意味を調べると『志願者の意』自主的に社会事業などに参加し、無償の奉仕活動をする人』とありました。でも私は、皆さんの活動ぶりからそれ以上のものを感じております。一言では表現できませんが、少なくとも誰にでも出来ることではないと確信しております。観光という柱があり、それを支えてもつと発展させるにはボランティアの無限の力が一番適しているような気がします。全道各地の皆さんの活躍が北海道観光の将来に大きく繋がるのだと信じて頑張っていたきたいと思っております。事務局として皆様にお会いできるのは、年に一度の全道大会とこのクリスタル会報だけです。お寄せいただいた原稿を何度も読んでいるうちに皆さんの顔が浮かんで再会したような気分になりました。次回は馬蹄が響く新ひだかでお会いしましょう。